

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	キリスト教と文化研究センター
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. センター長、副長がコーディネーターとなり、少なくとも3つの研究プロジェクトを設定する。	→各プロジェクトの研究会やフォーラムを各学期少なくとも2回行う。	B	B	B	B	B
2. 活動の迅速な報告のため、キリスト教と文化研究センターのホームページを充実する。	→キリスト教と文化研究センターのホームページを月1回更新する。	C	B	B	B	B
3. フォーラムや講演、また研究プロジェクトでの発表は、本として発行する。	→研究雑誌を年1冊発行し、書籍を年1冊出版し、成果を広く問うていく。	B	B	B	A	A
4. 公募研究費を申請する。	→公募研究費を年1回申請する。	D	D	D	D	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「関西学院におけるキリスト教主義の展開」、「現代文化とキリスト教」、「東アジアの平和と多角的な宗教・NGO・市民社会の役割」の3つの研究プロジェクトは、年間合計7回の研究会を開催した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 各研究プロジェクトは予定された研究会を実施することができた。なお、「関西学院におけるキリスト教主義の展開」プロジェクトは、ミッション展開推進委員会の「自校教育プログラムチーム」からの協力依頼を受け、「建学の精神考第4集」の資料収集活動を開始した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 各研究プロジェクトは、各主題に従い、継続して研究会の開催を予定している。「関西学院におけるキリスト教主義の展開」プロジェクトは、「建学の精神考第4集」の編集を終え、2014年度末までに出版を予定している。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか ホームページは月に1回更新した。講演会、研究会の内容、ニュースレターのデジタル化したものを掲載し報告に努めた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学内外の関係者に活動内容をできるだけ迅速に紹介し、報告することができた。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 継続的にホームページを充実させ、活動内容を迅速に報告する。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 各研究プロジェクトは、各主題に従い、研究会の内容をまとめ、ニュースレター、紀要に掲載した。また、終了を予定しているプロジェクトは本の出版を目標に、講演、研究会のテープおこし、編集、執筆作業を行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か RCCニュースレター第23号(2013年7月)、第24号(2014年3月)を発行した。紀要「関西学院大学キリスト教と文化研究」(第15号)を発行した。(2014年3月31日)。「自然の問題と聖典一人間の自然とのよりよい関係を求めて」を出版した。(キリスト新聞社、2013年11月)	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 各研究プロジェクトの研究会の発表内容、研究成果を文章化し、引き続きニュースレター、紀要等に掲載し、最終的には本として出版することに努める。	☆
		その他	☆
			☆
目標4	D	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 公募研究費の申請について検討準備を進めた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 該当する研究プロジェクトが見当たらず、今後の検討課題とすることとした。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 継続的に情報を収集し、検討を進める。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆